資料 *10*

目　次

１．三重県防災ボランティアコーディネーター養成協議会　山本康史氏＿＿＿＿ *1*

２．医師・労働衛生コンサルタント　洙田靖夫＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ *4*

３．神奈川県災害救援ボランティア支援センターサポートチーム宇田川規夫氏＿ *5*

内　閣　府（防災担当）
防災ボランティア活動検討会（第３回）
平成１７年６月１０日

１．三重県防災ボランティアコーディネーター養成協議会　山本康史氏

１）　防災ボランティア活動に係る人材育成と男女共同参画

〇人材育成

・コーディネーターの講座について

災害時にコーディネート能力を発揮できる人は、会社役員であったり、社協職員であったり、学生でクラブサークル活動で部長しているなど、平常時から何らかのコーディネート業務をおこなっている人。

災害時の活動について座学で学んでいても、このような日常での実践をできていない人では応用力が無く対応できない人が多い。

コーディネーターの講座についてはできることに限界を感じる。（三重県の講座も、育てるというより、できる人を見つけ出す、という感覚でおこなっている）

いかに日常で実践できている人に防災に興味を持ってもらえるか？　という視点で受講生を捜すことが大切ではないか。

・男女共同参画について

災害時の活動における女性の視点が大切なのは大変よく理解できる。主な切り口はおおざっぱに二つあると感じる

「女性被災者の自立支援に向けた活動の強化」

平常時から女性の果たす役割が大きい家庭ほど、復興に果たす女性の重要性も増すでしょうし、それだけ負担も大きくなるでしょう。根本的な解決は日常的な男女の役割の見直しからではないかと思います。

この視点についてはボランティアで考えても所詮支援者側であって当事者ではないので、被災者による意見交換会やよりよい支援のあり方など、支援を受けた側の意見集約の場を考えてみる必要があるのではないでしょうか？

「女性ボランティアの参加機会の拡大」

これについては､現状でも多数の女性ボランティアが活動しているという感覚があるが、実際に統計的な裏付けは持ち合わせていない。

共同参画を考えるにあたっては、男女が同じ活動を平等にするのではなく、女性ならではの活動をもっとたくさん創造していく方がより被災者の自立支援につながるのではないかと思う。

２）　災害復興期及び平時の防災ボランティア活動

・「若者・よそ者・ばか者」救援ボランティアを受入できる地域になるためには　災害発生時に地域外からのボランティアを受け入れる事は被災地にとって大きなストレスになる。このストレスをできるだけ軽減できる様準備しておく活動が必要になる。(私たちはこれを「受援」ノウハウと呼んでいる)

地域外のボランティアは基本的に「若者・よそ者・ばか者」であるが、この中に「悪者」が混じっている。受援ノウハウのキモはこの「悪者」を如何に見いだし、お帰り願うか、ということになるかと思う。

この手法に王道はなく、日常的に「若者・よそ者・ばか者」を地域で受け入れられる様な機会をつくり、実践しておくことが大切だと感じる。たとえば、地域の祭りに地域外の人も仲間として参加してもらうことで、地域外からの人たちと協働する事をＯＪＴトレーニングしておく。

これにより災害時にもボランティアを受け入れられる地域ができあがっていくと思う。

３）　災害救援の広域連携、後方支援活動及び情報ボランティア

連携するためにはお互いの顔がみえる関係つくりが大切とよく言われますが、たとえば、インターネットでソーシャルネットワークサービス（MIXI など）の防災ボランティア版を構築し、顔写真付き実名での登録に限定してネットワーク上にコミュニティを作る、というのはどうでしょう？

たとえば三重県防災ボランティアコーディネーター養成協議会では現在立ち上げたばかりで試験運用中なのですがこのようなサイトを作っています（http://www.v-bosaimie.jp/　次ページ参照）

（現在まだ試験運用中なので協議会メンバー以外の登録はお断りしていますが、ゲストでの発言は OK です）

以上

防災ボランティアみえ.jp
検索
ミニカレンダー (piCal)
2005年 6月
月 火 水 木 金 土 日
1 2 3 4 5
6 7 8 9 10 11 12
13 14 15 16 17 18 19
20 21 22 23 24 25 26
27 28 29 30
< 今日 >
ログイン
ユーザ名:
パスワード:
ログイン
パスワード紛失
新規登録
メインメニュー
オンライン状況
1 人のユーザが現在オンラインです。
登録ユーザ : 0
ゲスト : 1
もっと...
ようこそ
いらっしゃいませ、ゲスト さんを。ようこそ防災ボランティアみえ.jpへ。このサイトでは、三重県内でいつ災害が発生する時にそなえ、顔が見える関係つくりをお手伝いするためのサイトです。よろしければぜひユーザ登録をお願いします（現在は試験運用中につき、三重県防災ボランティアコーディネーター養成講座メンバー以外の登録はお断りしております。ご了承ください。ただし閲覧はできますので、ぜひコンテンツをお願いします）
トップニュースブロック
防災みえ.jpを開設しました (55)
最新ニュースブロック
防災みえ.jpを開設しました (2005-5-30)
フォーラムでの最近の投稿
フォーラム スレッド 返信 閲覧 最終投稿
雑談の部屋 使い方についての質問 1 10 2005-6-2 1:02 yasushi
自己紹介の部屋 XOOPSに興味津々の男女です。 1 11 2005-6-2 0:57 yasushi
自己紹介の部屋 このサイトを立ち上げた山本です 0 8 2005-5-31 22:17 yasushi
雑談の部屋 よろしくお願いします 2 10 2005-5-30 23:53 onigawara
雑談の部屋 使い方についての質問 1 10 2005-6-2 1:02 yasushi
自己紹介の部屋 このサイトを立ち上げた山本です 0 8 2005-5-31 22:17 yasushi
フォーラムへ
最近の画像(画像付)
新潟書作成、いった... (2005-6-3)
安政津波遠望 (2005-6-2)
玄海島で家主の帰り... (2005-6-2)
平成16年台風21号の... (2005-6-1)
公民館に残る津波伝... (2005-5-30)
南発町「海死者の碑... (2005-5-30)
今後の予定 (piCal)
6月 4日
[三重県総合防災訓練]
予定の追加
新着リンク
防災・危機管理e-カレッジ (2005-5-31)
HANZOU-NET (2005-5-31)
防災みえ.jp (2005-5-30)
高評価リンク
HANZOU-NET (3)
防災みえ.jp (2)
防災・危機管理e-カレッジ (2)
butcher
onigawara
nakajima
akiyo
makoto
このサイトは三重県防災ボランティアコーディネーター養成講座により運営されています。 Theme Designed by OCEAN-NET

２．医師・労働衛生コンサルタント　洙田靖夫

ボランティアの安全衛生対策について

１．マニュアル類の整備ならびに広報

ボランティアの安全衛生マニュアル類は、現在各地で整備されつつあるが、まだまだ不十分である。状況によっては、小学生や中学生が災害ボランティアに参加する可能性があり、もっと理解しやすいものに改訂する必要があろう。

マニュアル類の整備を行うチームを作り、マニュアルを使用する側の意見をどんどん取り入れながら、より良いものにしていくべきである。

また、整備されたマニュアル類は、電子媒体と紙の媒体で提供する。

１－１．電子媒体

電子媒体はインターネット上で公開する。サイトは、関心を示す地方公共団体および社会福祉協議会等の公的でしかも草の根に近いものとし、大規模災害にも対応できるように２個以上のサイトが望ましい。内閣府のサイトがこれにリンクを張っていただけるとありがたい。

また、ＣＤやＤＶＤ等での配布も考えられる。こちらは、手間がかかるので有償となると思われる。

１－２．紙の媒体

基本的にサイトで公開されているものを各利用者が印刷して使うことを想定しているものの、インターネットを十分に使いこなせない市民もいるわけだし、大規模災害では、一部地域でインターネットが使えない事態も十分に考えられる。

これらを勘案するに紙の媒体での提供も検討する必要がある。これも手間がかかるので、有償となろう。

２．ボランティア保険のさらなる充実

安全衛生対策の一環として、ボランティア保険があるが、保障内容に対して十分な検討がなされているであろうか。感染症に対しては、給付がなされていないと聞いている。

保障内容を十分に吟味し、意見をまとめ、不足の点があれば、損害保険業界に申し入れるなどの措置を取るべきであると思う。

また、自動車の運転をする者は自賠責に入る必要があるように、ボランティア活動を行う者もしかるべき保険に入る必要があると思う。無保険状態のボランティアは、リスクが高いと思われるので、これの対策もあわせて考えるべきであると思う。

３．神奈川県災害救援ボランティア支援センターサポートチーム宇田川規夫氏

「防災ボランティア活動と男女協同参画」

災害は人々の生活を根底から覆し、破壊してしまう。であるとすれば、災害への備えの視点として「生活」を総合的に捉える事が必要なのは言う間でもない。しかし現実の地域での防災訓練や、実際の被災現場では性差に因る役割分担がなされている事が多い。例えば炊き出しがそうである。おにぎりを握ったり、パックに御飯を詰めるのに男性の姿を見ない。確かに力仕事ではないから女性でもできるが、それなら子供でもできる事になる。問題は性差に因る社会的分業を無批判に認めた上では、災害が人々の暮らしにもたらす困難を見て取る総合的な視点を欠いてしまう事にある。避難所での生活でプライバシーの確保を感じる人と、気付かない人との感性の違いも、日頃の男社会の反映と言えよう。

であるから防災ボランティアのリーダーには、子供の暮らし様、女性の暮らし様、年寄りの暮らし様、障害者の暮らし様、外国人の暮らし様、など社会を構成する多様な人々の有り様を理解し、配慮する目が絶対に必要なのである。自分の家庭で妻に家事一切を任せていて防災ボランティアに必要な視点は得られないだろう。

子供にもできる活動、女性（男性）に向いている活動、男性（女性）だからこそできる活動、と柔軟に考えられる発想は日頃の暮らし振りから生まれる物である。